とどけ夢 未来へ
-DREAMING-

小林 蒼河 さん

●栃本小学校６年

めざせ！プロ野球選手

僕の将来の夢はプロ野球選手になることです。

僕は小学校２年生から野球を始めました。学童野球で活躍する兄にあこがれて、僕も兄のようになりたいと思い、野球を始めました。

僕は、広島東洋カープの前田健太選手のようなすごい投手になりたいです。そのためにも一生懸命努力をし、中学、高校と野球部に入り頑張りたいです。そして、有名な選手になって、いつも応援してくれている両親に親孝行をしたいです。

みんな広場

佐野ブランドキャラクター
さのまる

市長からのメッセージ

朝晩の冷え込みも増し、日に日に秋の深まりを感じるこの頃、皆さんいかがお過ごしでしょうか。

先々月中旬、第２次佐野市訪英団として英国ロンドンを訪問して参りました。当時のロンドンは、ちょうど今頃と同じような気温であり、一足早く秋を感じてきました。今回の４泊６日の訪英では、国際クリケット評議会及び世界トップクラブである「マリルボーン・クリケットクラブ」の代表者と面会し、友好促進に関する合意書並びに交流に関する親書をいただき、今後の友好協力を約束してまいりました。また、在英日本人会主催の「ジャパン祭り」にも参加し、開会式では偶然、森喜朗元首相とご一緒することができました。その他、英国日本人会や日本スポーツ振興センター・自治体国際化協会ロンドン事務所などを訪問し、意見交換をしながら本市のシティプロモーションを行ってまいりました。

さて、今月13日には、いよいよ行政運営の要であり皆さんの生命・財産を守る防災拠点である新庁舎の落成式が行われます。４年前に仮庁舎に移転して以来、大変不便をお掛けしましたが、先月19日に無事引き渡しとなりました。落成式の翌日の14・15日には市民の皆さんへの内覧会を開催します。新庁舎周辺において落成記念イベントも行われますので、是非、新庁舎を中心とした「まちなか」に足を運んでください。なお、新庁舎の開庁式は12月7日予定です。

最後に、第8回ルネサンス鋳金展が15日まで佐野市文化会館で開催されています。芸術の秋の締めくくりに、全国から出品された鋳金作家のすばらしい作品に触れてみてはいかがでしょうか。　**岡部 正英**

今回の表紙　「首を垂れる稲穂」１０月９日（金）市内で撮影

９月から１０月にかけて、市内各地で稲穂を刈り取る姿が見られました。

秋は実りの季節。平成２５年１０月から工事が進んでいた新庁舎もいよいよ完成し、１１月１３日・１４日には内覧会が行われます。新庁舎については本紙４ページから９ページに掲載していますので、ぜひご覧ください。

キラリ★話題の「ひと」

小倉　健一さん
（出流原町）

〇プロフィール
出流原町在住
「いそやま友の会」代表
出流原小学校地域教育コーディネーター
まちの駅「名水弁天池」の駅駅長
佐野市消防団第１２分団団員

『うるし千ばい　朱千ばい』

昔、出流原に長者夫婦がおりました。

しかし、子宝に恵まれず磯山の弁天様にお願いしたところ女の子を授かり鶴姫と名付けました。

ところが、鶴姫は美しい娘になった１８のとき、行方不明になってしまいます…

ある夜、夢の中に神様が現れ、「鶴姫は弁天池の鯉になっている。竜神となり昇天させるには財宝が必要だ」とのお告げがありました。

長者はありったけの財宝を言われた通り、後山という場所に埋め、ありかを誰にも知られないように歌に託しました。

『うるし千ばい　朱千ばい　桑千ばい　黄金千ばい　朝日さす　夕日輝く　雀の三おどり半の下にある』

その宝は今でも見つかっていません。

出流原弁天池に残る伝説です。

その出流原弁天池（磯山公園）の環境保全活動を行い、その素晴らしさ生かして、地域の元気・将来に繋ぐ活動を行っているのが今回紹介する小倉さんです。

地域教育コーディネーターとしては学校と地域の橋渡しを行い先生からの依頼ごとにサポートしています。

また、自ら営む「まちの駅」では、駄菓子屋さんとしても子どもたちのふれあいの場となっています。

昭和60年に弁天池は名水百選に選定されました。しかし、10年ほど前に小倉さんが地元出流原に戻って来たとき、弁天池は荒れていました。

小倉さんは、昔みたいに美しく、賑わいがある弁天池を取り戻したいと「いそやま友の会」を立ち上げ、同志とともに毎月クリーン活動を行い、毎年春に音楽祭を開催しています。

「一人でも多くの人に活力与える池にしたい。日本の栃木県佐野市にはこんなに癒される湧水池があることを世界に発信し、外国の人たちにも訪れてもらいたい。そして弁天池は命ある限り守って行きたい」とこれからの抱負を語っていただきました。

出流原に眠るお宝…それは、人々のふれあいだったり、あるいは優しさや強さを与える力だったり、目に見えるモノではないのかもしれませんね。弁天池に来ると、誰もがそのお宝を見つけられるような気がします。

（市民記者　中里聖子）

佐野弁　ばんだい

なめくじには殻がないから ハダカ〇〇といった

なめくじは、かたつむりのように、もともとはらせん形の殻をもっていました。その殻が退化してなくなってしまいました。なめくじの体はやわらかく、ぬるぬるしていて二対の触角をもっています。大きさも体つきもかたつむりにそっくりです。なめくじは殻をもっていないために、ハダカ〇〇といわれるようになりました。ハダカデーロ（ー）・ハダカダイロ・ハダカダイボ（ー）・ハダカダイボロ・ハダカデーボのように、その数は約10種類あります。

「あのデッケー木のザンマタ（木が二股に分かれているところ）ンとこに、ヌルッカヌルッカ（ぬるぬる）したハダカデーボがいるンで、キビーワリー（気持ち悪い）っていってたよ」

なめくじの角は敏感で、周囲のようすを見わたしながら、出したり引っ込ましたりします。子どもたちはそのようすを見て楽しみながら、「角出せ、角出せ」とはやし立てました。ダイロ・デーロ・ダイボロは、角を出せという意の「出い、出よ、出ろ」が変化したものです。この方言が佐野に伝わり、今でも使っている高齢者は大勢います。

もっとも広く使われている佐野方言にデーロがあります。これはハダカデーロが省略されたものです。旧安蘇郡（田沼町・葛生町）では、なめくじには殻、つまり住む家がないということから、かつてはイエナシダイロ（家なしなめくじ）といい、それが訛って、エナシデーロともいっていました。（市民記者　森下喜一）